レポート 海外派遣(中国(洛陽)派遣)を通じて

著 夏目 哲匠

2015(平成27)年 7月24日~30日

四つの学び

僕はこの初めてである海外での一週間で様々なことを学びました。それは、

- 日本人の中国(中国人)に対する思想の違い
- 自らの知らない異った世界。
- 日中の人と人の間のコミュニケーション。
- 日本(岡山)と中国(洛陽)の共通点。

つまり、大きく分けて四つの学びを得ました。

清らかなる「洛陽」

まず、ぼくの中国という国に対するイメージの違いです。一日目、日本から到着した時の上海は確かにぼくが想像していたように感じました。それが図一の写真です。しかし図二を見てください。こんな清純な所が洛陽にはあったのです。この山は、実は有名な少林寺拳法の生まれた地である少林寺のある嵩山西材屁です。僕はこれを見た時、鳥肌が立つほど衝撃を受けました。

「上海」 図1
雲がないのに、にごっている空。

⇩

快晴で、美しさが増す山「洛陽」 図2

暗雲漂いし世界

次に「自分の知らない異った世界」です。日本は、落とし物、忘れ物など、預けたり、発見したりと、安心・安全面では世界一ですが、海外では、手荷物を他の人に取られないように気を付ける必要があると聞き、とてもびっくりしました。

伝わらないことの面白さ。

そして、「日中の人と人との間のコミュニケーション」です。ホームステイ[illegible]兼が[illegible]るでしょう。僕もその一人でした。その理由はコミュニケーションがとれなかった時の不安を感じたくなかったからでした。「相手は中国人」と考えると、言葉が通じないと考えてしまいます。実はそれが大きなまちがいでした。全てのコミュニケーションが言葉だけとはかぎらないのです。身ぶりや手ぶりもあれば機械を使ったり、本を使ったり、あらゆる手法でコミュニケーションをとることは可能です。また伝わらなくても伝わるように工夫するために頭を使います。それは勉強や遊びが楽しいように、コミュニケーションが楽しいことにもつながります。僕は、このようなことを学びました。

自然の動きのつながり

最後は、「日本と中国の共通点」です。僕は一番に気候だと思います。日本では岡山は乾燥している方ですが、梅雨の時期はやはりジメジメしています。なので比較的山に近く、雨の降りやすい洛陽の気候は日本と似ていたのです。実際、バスに乗った時も、約三十分ごとに天気が変わりました。また、温度もだいたい、感覚的には、同じくらいで、過ごしやすかったです。

反省同時に感想の欄。

僕は実は、学びを得る機会はもっとありました。しかし、自分のダラダラしてしまう生活によって、なまけてしまう時もあって、とてもくやしいです。心から反省していますしかし、学びについて考えると改めて驚くこともあって、学びの増やし方も得ることができました。この機会は、見方によれば経験の場であり、学びを修める派遣、つまり修学派遣だったと僕は思います。